

テーマ 『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考える」』

開催日時・会場

- 平成24年4月27日（金）18時～20時
- 県庁講堂

参加者

- 意見交換参加者 69名  
公募の県民：53名  
県関係者：16名（阿部知事、進行役職員15名）
- 傍聴者 約10名



会場の様子など

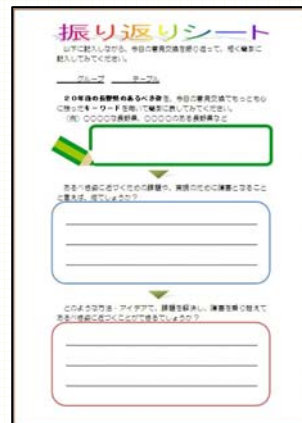
ワールド・カフェという意見交換の過程（プロセス）そのものを大切にするための手法によって開催しました。



冒頭、阿部知事が「20年後ですから、今の予算を前提にする議論なんかではいけない。自由な視点で大胆に話し合ってほしいと思います。一人ひとりの意見をぜひ尊重しながら、意見をぶつけ合う場じゃなくて、それはいいね、その意見に触発されて私もこういうアイデアがあるよと、ぜひ前向きなお話しをしていただければというふうに思っております。」とあいさつをした後、

ジャズのBGMが流れる中で、3人から5人のテーブルごとにたいへん活発な意見交換をしていただきました。

最後に、テーブルごとの意見交換を振り返って「振り返りシート」に長野県が20年後にあるべき姿に近づくためのアイデア等を記入していただき、全体発表を経て閉会しました。



参加者の主なご意見

参加者の皆さんに記入していただきました「振り返りシート」のご意見・ご提言は、新たな総合5か年計画づくりに活用させていただきます。

振り返りシートでは、以下の3つの項目に記入いただきました。次頁以下では、ご意見の概要をお伝えする目的で、サブ・テーマごとに簡潔に取りまとめて掲載します。

1 キーワード＝20年後の長野県のあるべき姿

20年後の長野県のあるべき姿を、今日の意見交換でもっとも心に残ったキーワードを用いて簡潔に表してみてください。

2 解決すべき課題と障害

あるべき姿に近づくための課題や、実現のために障害となることと言えば、何でしょうか？

3 あるべき姿に近づくアイデア

どのような方法・アイデアで、課題を解決し、障害を乗り越えてあるべき姿に近づくことができるでしょうか？

## グループ1 (サブ・テーマ: 長野県の誇る健康・長寿について)

### 1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✦ 長寿ではなく健康な長野県
- ✦ ひとりひとりが生き甲斐を持って暮らすことができる長野県
- ✦ 世代間に活発な交流がある長野県
- ✦ 地域で支え合う健康長寿、地域密着型の健康増進をすすめよう。
- ✦ 心豊かな長野県
- ✦ 子育て世代が住み続けたい魅力あふれる長野県
- ✦ 人と人とのふれあいのきっかけが必ず見つかる長野県

### 2 解決すべき課題と障害

- ✦ 長野県の良さを県民が自分自身で感じ取れているか疑問
- ✦ プチ都市化が世代間の断絶や核家族化の弊害を生んでいる。
- ✦ 地域に住む人々のコミュニティが希薄、世代間地域間のつながりも薄くなっている。
- ✦ 古い隣組の組織や行事が今のコミュニティには合わなくなっている。
- ✦ 若い世代が住み続けたい魅力ある街づくりが大切
- ✦ 地域において高齢者を支えるコミュニティが欠如している。
- ✦ 地域サービスの利用のための規制等がある。
- ✦ 中山間地の荒廃が、人口減少や限界集落を生んでいる。
- ✦ 自然、風土、環境等、長野県の長所を活かせる仕組みが必要
- ✦ 今の子どもたちから健康長寿の教育が必要

### 3 あるべき姿に近づくアイデア

- ✦ 安心できる社会には高齢者は必要
- ✦ 長寿イコール高齢化ではない、元気で長く生きる。
- ✦ 20年前を考えると20年後を考えるヒントが出てくる。
- ✦ 若い人に健康管理の大切さを知ってもらう。高齢になってからでは遅い健康長寿は高齢者のイメージだが自分の将来にどう目を向けさせるか、今の30歳代や40歳代の健康に対する教育・健康づくりが必要
- ✦ 減塩に取り組むことを続け、小さな頃から教育する。
- ✦ 保健師、食改、民生委員、開業医の先生の若返りと活動が地域を若くする
- ✦ 世代間交流が若い世代へ知恵や生き方を伝えていく。老人から子どもたちへの教育の場を作る。
- ✦ 交流することで、若い人は育児を母になった人は体によい料理を老人に近づく人は介護を自然と学ぶ。
- ✦ 老人ホームと保育園の併設など世代間の交流を充実させる。
- ✦ 折に触れ命、食のことを伝え健康に結びつけていく。
- ✦ 地域の交流を高めるためには地域でのふれあいの場所、共同畑・田んぼ、レストラン、温泉、保育所などの複合型・総合型の場を提供
- ✦ 地域コミュニティを充実させ絆をしっかりと結ぶ。あいさつ、声を掛け合うこと。コミュニティの再構築、食を通じて支え合う仕組み
- ✦ 地域リーダーを育成できる生涯学習の導入



- ✦ 地域の枠を越えて交流していく広域化の必要性
- ✦ 地域間のコミュニティーを確立するため、官民一体の支え合いが必要
- ✦ 長野県の自然を活かしたイベントで子育て世代が魅力を感じる県に（スポーツや食育、子育てなど、森の中での公園でのパークライブラリーやパン作りなど）
- ✦ 農業・林業の活性化が地域を救う。
- ✦ 高齢者就業率が健康を作る。退職後の仲間を集め農業生産に励む人たちを育てる。
- ✦ 20年後の農業は土から生まれる農業ではなく工場から生まれる農業に。

## グループ2（サブ・テーマ：長野県を支える産業について）

### 1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✦ 自給自足できる長野県
- ✦ 日本一の農業の継続と観光立県、観光を中心とした各産業のコラボレーション
- ✦ 日本一の技術を磨き上げ、助け合っ  
て交流と活力のある長野県
- ✦ 他地域との交流が盛んな長野県
- ✦ 交流人口の拡大による地域作り
- ✦ 里山の風景のある長野県
- ✦ 環境豊かで自然豊かな教育立県



### 2 解決すべき課題と障害

- ✦ 縦割り行政
- ✦ 法、条例等の整備
- ✦ 戦略がない、ブランドがない、勢いがない、交流がない、ゆとりがない。
- ✦ 住んでいる人たちは、その持つ魅力に気づいていない。
- ✦ 担い手の育成と後継者の確保。人口減少と高齢化。少子化による労働力不足
- ✦ 若者の仕事がない。生活基盤が確保されていない。高齢者が再び活動できる状態にない。
- ✦ 県外（海外も含め）に企業や人材が流出してしまう。
- ✦ 産業の改革につながる人材が不足
- ✦ 公教育のレベル低下
- ✦ 優れた人材を育成するゆとりや教育システムの不足
- ✦ 農業の担い手の減少、荒廃地の増加。中山間地域の人材不足
- ✦ 中心市街地の衰退、商店街では空き店舗増加
- ✦ 既存産業の衰退。大手、外国資本の参入
- ✦ 自然環境の整備（荒廃田、森林等）
- ✦ 日本3位の森林資源を活かす。
- ✦ 休耕地をなくし昔ながらの里山の風景を維持するためには規制緩和が必要

### 3 あるべき姿に近づくアイデア

- ✦ エネルギー、食料などの自給自足
- ✦ 長野にある自然資源を活かして第1次産業を守りつつ観光産業と結びつける。
- ✦ 地域の力を引き出すため、行政もバックアップ。規制緩和の特区を。
- ✦ 小規模も次世代産業への進出ができる仕組み
- ✦ ブランド化。長期的な戦略。
- ✦ 長野県の野菜、水、環境等、強みを活かす。



- ✦ 観光業を産業の中心と位置づけ、農業、商業、工業の育成を考える。観光産業の育成（産業観光、産業の体験観光、環境観光、ふれあい観光など様々な観光産業を育てる。
- ✦ 農地や里山、加工技術等…それらの組合せで新しいものを生み出す。
- ✦ 新しい地域連結型産業づくり＝多業種との交流、コラボレーションで創造＝新ビジネス＝雇用拡大
- ✦ 伝統食や伝統野菜、おやきのシリーズ化による食文化をアピールする。
- ✦ 県の地形に合致したエネルギー研究・開発。自前の小水力発電でエネルギーを確保する。
- ✦ 健康で働くことのできる高齢者の力を有機的に活用する。
- ✦ 女性高齢者の活用、連携交流。子育て中の女性の社会復帰
- ✦ 世代を分けない人材教育、人が産業を支える。
- ✦ 子どもたち・若者の産業体験（農業、林業、工業、長野県の魅力を知ってもらう。）
- ✦ 若者から高齢者までいっしょに住むスモールサイズのまちづくり。
- ✦ 知恵の伝承
- ✦ 今日のような交流、出会い
- ✦ 20年後を考えるには20年前を思い出すことも有効

### グループ3（サブ・テーマ：みんながあこがれる長野県での暮らしについて）

#### 1 キーワード＝20年後の長野県のあるべき姿

- ✦ 仕事以外でも忙しい信州人（地域・社会活動や余暇活動が充実した長野県）
- ✦ 3世代、皆が元気な長野県。知の伝達がされる長野県
- ✦ 戻ってこれる長野県、若い人たちが移り住む（戻ってくる）長野県
- ✦ 若い人が魅力を感じる長野県
- ✦ お年寄りが活躍できる長野県
- ✦ 自然豊かで住みよい長野県
- ✦ 余裕があって普通の暮らしができる長野県
- ✦ かつこ良く年を重ねられる長野県
- ✦ 心の豊かさを大事にする長野県
- ✦ 自然エネルギーの地産地消。自然豊かで絆で結ばれた自給県



#### 2 解決すべき課題と障害

- ✦ 農業関係の規制が多すぎる。
- ✦ 県民自身もっと地域の良さを認識し、楽しむことが重要
- ✦ 地域を良く知りふるさとに誇りを持てる教育が必要
- ✦ 仕事が特定の人に偏っている。今のことだけで先のことを考えない。
- ✦ 学校教育での地域住民参加の難しさ、教科書等必須の教育での忙しさ
- ✦ 子どもが都会に行って帰ってこない。若い夫婦が都会に出て行く。長野での職場欠如、若者が魅力とを感じる仕事が必要
- ✦ 規制、民間には分かりづらい法律
- ✦ 成長や発展を望まない考え
- ✦ 自然の豊かさ、資源の豊富さに気がついていない県民
- ✦ 中山間地の活性化が自然を守ることにつながる。
- ✦ エネルギーの自給自足のためのビジネスが困難

- ✦ 長野の地域資源を有効に活用していない。
- ✦ 県民は余裕のない日常生活を送っている。
- ✦ 豊かさは何かという価値観を同じ地域に住む県民で共有できていない。
- ✦ 普通の生活を支えた農業・林業が衰退
- ✦ 助成金に頼りすぎている。
- ✦ 新たなことをするとき（売店や他の施設）、許認可のハードルが高すぎる。
- ✦ 憧れる暮らしのイメージを持ってもらうと同時に実際に生活できるだけの稼ぎが必要。
- ✦ コミュニケーションがとれる場所・体験できる機会の少なさ
- ✦ 経済活動優先から真の豊かさへ、価値観の転換が必要

### 3 あるべき姿に近づくアイデア

- ✦ 農地の規制緩和
- ✦ 老婆心あふれる地域社会を作る（支え合いの社会づくり）。
- ✦ 働きたい人が働けるワークシェアの充実
- ✦ 世代間交流、地域の人と子どもたちのつながりを。
- ✦ 小さい頃から郷土・地域への意識を育む。
- ✦ 多種多様な小さな企業活動が活発となるまちづくり
- ✦ 学校と地域住民をつなぐコーディネート機関、コーディネーターづくり
- ✦ 地域の中で経済が成り立つような自給自足の仕組みづくり
- ✦ 競争を促し誇りを持たせるための教育
- ✦ 県民意識の共有化する討論の場を設定。県民が協同することで豊かな地域社会ができる  
ということ話し合い合意する。
- ✦ 地域に存在するコミュニティは重要である。
- ✦ 地域資源を活かすこと（薪ストーブがあっても薪がない）
- ✦ 県民が協同することで豊かな地域社会ができるということをよく知ってもらう。また、  
そのために、生活の中に「ゆとり」を生み出すことが大切
- ✦ I・Uターンしてきた人の理由に学ぶ。
- ✦ 一人ひとりがエネルギーの使い方に責任を持てる仕組みづくり
- ✦ 遊歩道、登山、グリーンツーリズム、エコツーリズム分野の振興
- ✦ 地産地消と地産他消のバランスが必要
- ✦ 若者との会話を多く持ち、自分の知っていることを教え、又若者の意見を取り入れるこ  
とでいろいろな面で長野県を見ることが出来る。
- ✦ 過剰な規制を避け、地元の産業を縛り付けない。
- ✦ 県民一人ひとりの力を集結しながら、地道な活動が必要
- ✦ 受容れコミュニティを競わせる（うちなら、こういう対応するとか）。
- ✦ 雇用の場を多くし農業の楽しさすばらしさを皆が知る。

